



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第34回「ドイツの電話ジャック」

【ドイツのa、b、W、E】

8月のIETF(Internet Engineering Task Force、標準化の国際会議)はミュンヘンで開催された。私はまず会場の向かい側のアラベラホテルに宿泊した。部屋に入るとまず電話機を見る。電話機側にはコネクタがなく、コードが直接に電話機に入っている。壁の側にもジャックがない。これではモデムが使えない。

こういときには電話機を分解するか、壁のコンセントを開けて配線を確認する。電話機は簡単にバラバラになった。基板にピンが立っていて、そこに小さなコネクタでコードが接続されている。ここは手を入れにくい。それならば壁側の解読だ。壁の配線には端子が見える。左からE、W、b、aの順番だ。このうち2線が通話の回路と思われるが判別できない。電話機の基板の配線パターンを追跡する。意外に複雑だ。よく分からない。

翌朝ホテルをチェックアウトする際に、日本から持参した電話のコードを見せて質問をした。「このプラグはお宅のホテルでは使えないのか。客室になければ、せめてビジネスセンターとか。」「お客様、うちのホテルでは10階の客室は全部そのジャックになっております。おー、それは残念。

【国際会議の端末室は便利】

2日目はIETFの会場のシェラトンホテルに移る。先ほどの経験を生かしてチェックイン時に「このプラグが使える部屋を」と頼んでみた。「それはコンシェルジェでお話ください」と言うので、コンシェルジェ嬢にケーブルを見せるが「何ですか、それは」と頼りない。

結局、シェラトンの電話機もアラベラと同じだ。早速分解してみると、これも壁側の配線はa、b、W、Eである。電話機はというと……あら、分解したら元に戻らなくなった。いや落ち着いて組み立てれば大丈夫。ふー。またまた時間の浪費だ。

部屋を後回しにして、まずは国際会議IETFに顔を出し、必要な連絡は端末室で済ませる。持参したラップトップをDHCPで接続する。IPアドレスもゲートウェイも自動設定だから、本当に楽チンだ。IPレベルで接続できるのはありがたい。それにしても、日本語のメールを読む必要がなければ、わざわざラップトップを携帯しな

くても端末室に装備してあるマシンで済むのだからなあ。INETでもIETFでも日本人同士は端末室のハブの友になる。

【結局はサイバーカフェか】

今回の旅行は忙しい、国際会議のあとはベルリン訪問だ。ドイツの研究ネットワークDFNの事務所の近くにドームスというホテルがある。ここの電話機もやはりE、W、b、aの4線だ。この小さなホテルは家庭的な雰囲気なので、いろいろと質問してみた。

「コンピュータを接続したいという宿泊客もいるでしょう?」「はい、よく質問されますよ。それで客室にISDNを引こうと計画しているのです。それは結構な計画だ。でも今日は間に合わないや。「それじゃ電子メールを使いたい宿泊客はどうしているの?」「実は近所にサイバーカフェがありましてね。ぜひ場所を教えてください。僕はどうしてもスウェーデンの友人に今日中に連絡を取りたいから。

それにしてもドイツの電話は謎だ。サイバーカフェの前に電器屋に向かう。このTAEというのが電話のコネクタらしい。「米国式の変換ケーブルがありますか?」「はい、あそこ棚です。確かにある。でもホテルの壁には適合するジャックがない。それに電話機側のピンの配列にジーマンズ式と国際式と2つあるらしい。なかなか一筋縄では行かない。

この電器屋は結構広い。パソコンもある。あ、インターネットコーナーもある。そのブラウザーが動いているマシンはウィンドウズNTだなあ。TELNETもできるかしら。おや。なかなか快適だ。日本までログインできた。ちょうどスウェーデンから電子メールが届いているぞ。短い返事を書いて仕事完了。これはありがたい。サイバーカフェまで行かなくても用事が済んだ。

今回のヨーロッパ出張からの帰路に、空港でインターネット端末を見かけた。クレジットカードで使える電話と並んで置いてある。ストックホルム空港とフランクフルト空港のものは同一機種で、ウェブのブラウズとPOPによる電子メールがメニューで選択できる。このような設備が普及していくのだろうか。そういえば、成田空港第2ターミナルのビジネスセンターにも二フティのアカウントがあればインターネットアクセス可能という端末があった。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp